

令和5年度 介護の日 作文・写真コンクール作品集



茨城県知事賞
須賀 貴子 (縦山デイサービスセンター)
「『これ、見ろよお〜』」



茨城県老人福祉施設協議会長賞
大曾根 幸代 (ケアステーション藤が原) 「やっと会えたね」



茨城県介護福祉士会長賞
根本 有美 (あいおんの里羽鳥)
「てへっ?」



審査委員長賞
高橋 隼 (トランス田村)
「美女と薔薇」



広報委員長賞
外岡 恵子 (サンピアデイサービスセンター)
「三度笠」

審査委員長賞 菊地 まゆみ (笠間陽だまり館)
「七色に染める」



特別賞 澤田 英明 (あかねサクラ館)
「地元御船まつり」



はじめに

十一月十一日は、「介護の日」です。「介護の日」は、介護についての理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護に取り組む家族を支援するとともに、これらの方々を取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する日とされております。

この趣旨を踏まえ、県と茨城県老人福祉施設協議会との共催による「介護の日」作文コンクールを実施し、県民誰もが介護について考えるきっかけとするとともに、茨城県老人福祉施設協議会主催で「介護の日」写真コンクールを実施し、高齢者福祉・介護現場での多くのふれあいと感動を伝えることとしております。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されましたが、関係する皆様の御協力により、心温まる多数の作品をご応募いただき、第十五回目となる両コンクールを開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。

作文コンクールにおいては、二百二十三作品の応募があり、茨城県知事賞、茨城県議会議長賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県社会福祉協議会長賞、茨城県理学療法士会長賞、茨城県介護福祉士会長賞の各賞二作品、合計十二作品を選定いたしました。また、写真コンクールにおいては、百九十二作品の応募があり、茨城県知事賞、茨城県老人福祉施設協議会長賞、茨城県介護福祉士会長賞等を選定いたしました。

この度、両コンクールの受賞作を作品集にまとめました。多くの皆様に御覧いただくことで、介護についての理解と認識を深める一助となれば幸いです。

目 次

グエン ティ フェン	「介護福祉士の夢に向かって」…	1
稲田 桃香	「私なりの関わり方」…	2
宮内 優希	「介護に必要なこと」…	3
吉田 幸子	「共に生きた三百日」…	4
鮎川 結芽	「私の祖母」…	5
小園江純平	「利用者様の想いに寄り添う」…	6
高木 花愛	「曾祖母が教えてくれた福祉への道」…	7
早乙女洋子	「出会いと共に」…	8
大川 咲羅	「曾祖父がくれたもの」…	9
海老原典恵	「笑う門には福来る」…	10
鴨田 樹季	「祖父とのハイタッチ」…	11
山野 素子	「介護で深まり広がるつながり」…	12
茨城県老人福祉施設協議会の取り組み…		13
茨城県社会福祉協議会の取り組み…		14
茨城県理学療法士会の取り組み…		15
茨城県介護福祉士会の取り組み…		16



特別賞 加川 武士 (阿見翔裕園)
「見たことね～な」



佳作 大津 裕貴 (あいおんの里水戸)
「新世海」



佳作 柳田 絵利香 (希望の森)
「鬼より元気」



佳作 菊池 千代美 (ドルフィンサテライト)
「俺に任せろっ」



佳作 小嶋 恵子 (はっぴーデー)
「かき氷冷たーい！」



佳作 鳥羽田 夏紀 (ひぬま苑)
「86歳！スター誕生！」



特別賞 大津 和則 (あいおんの里水戸)

「初顔合わせ」

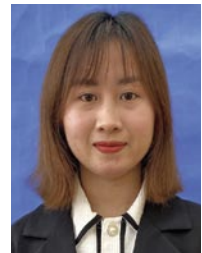


茨城県知事賞

介護福祉士の夢に向かって

私は現在介護の専門学校の一学生で、介護施設でアルバイトをしています。介護職員さんと一緒に、利用者様の食事の準備や食後の片づけをするのが仕事です。私の仕事は掃除の仕事です。実際にやってみると、自分がしている仕事はとても意味のある仕事で、その仕事が間接的に利用者様に美味しいお食事やお茶を届けるのに役立っているのだと思いました。もし自分が利用者様の立場だったら、きれいな環境で美味しい食事をしたいたいと思います。清潔な環境を提供することで、利用者様の食欲増加や、健康維持に繋がると思えます。その作業によって介護スタッフの負担も軽減され、利用者様へのケアができるようになります。介護施設で、利用者様とたくさん触れ合うことができました。利用者様はとてもフレンドリーで、利用者様からお褒めの言葉や声援、感謝の言葉を頂くことがとても嬉しかったです。

私は以前から自分の存在価値や意味を考えることがありました。そんな時に「介護」という仕事を見つけ、私も誰かに必要とされながら生きていきたいと考え始めました。それでも私は介護の大



いばらき中央福祉専門学校

1年生

グエン ティーフエン

変さよりも、高齢者の方を支援したいという気持ちを第一に考えます。

笑顔で「生きていて良かった」と思いながら、毎日を過ごしていただけるよう、そんな毎日を支援したいという気持ちを実習を通してより一層、強くなりました。そんな私の夢に対して、周りの方から励ましの言葉を頂くことがあります。「あなたなら出来る」、「応援しているよ」という言葉です。これらの言葉が、落ち込んだ時の私の活力になっています。

そして私には同じ夢を追う七人の仲間がいます。この仲間と一緒に日々頑張っています。辛い時には支えてもらい、楽しい時には一緒に笑い合えます。これが私一人だけだと挫け、途中で諦めていたと思いますが、仲間同士で学んでいくことで頑張ることが出来ています。

介護福祉士という夢を目指す中で、こんな素敵な仲間と出会うことができました。この出会いは、介護福祉士という夢がもたらしてくれたものです。



特別賞 広崎 修司 (延寿館)
「96歳のゲーム」



茨城県知事賞

私なりの関わり方

介護を始めて七年。今まで関わらせていただいた入居者様の数は数え切れなくなりました。未経験で始め、正直介護に興味があった訳でもありませんでしたが何故介護を選んだのか。日本は少子高齢化社会な為、需要がある、スキルを身に付けておいて損はない、長く働ける、未経験で始められる。多々理由がありますが、どれも現実的な事ばかりで希望もない為、すぐに辞めると感じながら始める事になったのです。いざ始めてみると毎日学ぶ事があり、指導して下さった先輩方のようになりたいと目標を持つようになりました。大変なのはもちろんですが、入居者様への気配りや関わり方について学ぶ事が多くあり、それは人間性を見直す事にもなったと思います。声掛け一つとっても違いがあり、例えば入浴拒否がある方に対して「お風呂行くよ」と声掛けをしても拒否されてしまいますが、「温泉行きませんか？」と声掛けをしたらどうでしょう。お風呂は嫌いだけ

温泉ならと気持ちが変わる事があります。細かな気配りで入居者様の笑顔が増えて良い介護ができるようになる、私も嬉しくなります。特養に勤務していますが、人生の最後をどう過ごしたいかを考えた時に、楽しく幸せに過ごしたいという思いは皆様同じだと思います。できるだけ工夫をして行事を計画し、楽しめる空間を提供しています。今は昔の風景やおもちゃ等を設置したお祭りの開催を計画中で、職員一同一生懸命取り組んでいます。そして最後の時、ここにおいて幸せだったと声を掛けてもらえるように頑張っていきたいと思えます。忘れてしまうかもしれないけれど、この一瞬を大切にすることにやりがいを感じます。最初はほとんど興味がなかった介護ですが、始めてみると大変な事もありながら人生の先輩方からたくさん学ぶ事があり、スキルも身に付き、充実した日々を送っています。人と人との関わり、とても難しく悩む事もあるからこそ面白いなあと思っています。



社会福祉法人 愛和会

介護福祉士

稲田 いなだ
桃香 ももか



特別賞 稲毛田 まち子 (みどりの里)

『美酒 この1杯』



茨城県議会会議長賞

介護に必要なこと

ある日、突然大叔父夫婦が我が家にやってきた。「最近妻が変な言動をとるんだ。心配で仕事に行けないから、一日見てほしい」と疲れ困った表情で大叔父が言う。大叔母の見た目に変化はないが私のことを覚えていなかった。また、家の中から窓を見るなり「誰かが見ている」「この家は狙われているわよ」などと怯えた表情で言い出した。様子がおかしいと思った私は、看護師の母に聞き「認知症」と言う言葉を知った。「認知症」とは、記憶や思考など認知機能が低下し、日常生活や社会生活に支障をきたす状態のことだ。

その後、病院へ行き認知症の診断を受けた。大叔母は施設にいく事を強く拒否したため、自宅で大叔父が介護をする事になった。

私は母と一緒にたまに手伝いへ行く。大叔母は元々綺麗好きで、料理がとても得意だ。しかし今は掃除や料理の手順を忘れ、またトイレや入浴も一人で出来なくなっていた。症状の進行の速さにびっくりしたことを覚えている。簡単な作業でも



学園の森義務教育学校 7年生

宮内 優希

時間がかかっていたり、失敗していたりする大叔母の姿を見てみると、かわいそうに思い、私はすぐに手伝ってしまっていた。しかし、母に「代わりに全部やってあげることが症状悪化につながる場合もあるよ。見守ることや、出来るように誘導してあげることが大切だよ」と言われた。

私は母に言われたことが気になり、介護について調べた。病気を理解し現状を把握してその人に合った介護を行うことが重要。それは行動を支えることだけではなく、不安を取り除いたり、日常会話を一緒に笑ったり、心の支えになることも大切となる。こうしたことが「介護予防」と言っても大切となる。こうしたことが「介護予防」と言っても大切となる。こうしたことが「介護予防」と言っても大切となる。こうしたことが「介護予防」と言っても大切となる。こうしたことが「介護予防」と言っても大切となる。

今回の経験を通し学んだことは、介護する人の全てを手伝うのではなく、残っている筋力や能力など機能を把握し介護すること。そのためには相手をよく観察する。私はこれらを大切にし、大叔母に寄り添っていききたい。



佳作 本多 祐介 (あいおんの丘大子)

「楽しいお散歩」



茨城県議会議長賞

「共に生きた三百日」

夏の終わりを告げる秋風、病院からの帰りの車の中は誰も話す事なく静まり返っていた。時折車の外の畑の畦道には、まっ赤に彼岸花が咲いている。生命の様に燃えて咲く花とこれから消えていく命と対象的に映えているようだ。

娘と私達夫婦は、医師から主人は末期癌で治療が出来ない事、持病のため手術も不可能の事、私はこの言葉を無言で聞いていた。

退院の準備をし、緩和ケアの病室を見学し、予約して家に向かおうとしていた。治療が出来ないのなら退院して、家で過ごそうと決めた。すぐに介護申請の手続きをして、ベッド、車いす、つえの手配、週一回の訪問診療となった。家族も暗い気持ちの中で看護師の若い人が入ってくれる事により少し明るい雰囲気の間が過ぎた。

主人も日がたつにつれ体力がつき食事も前より取れる様になり自力で歩ける様になった。診療に入る先生もびっくりする回復ですと言っていた。本人の「まだ生きたい」「まだやり残した事がある」



介護職

よしだ
吉田 幸子
さちこ

という強い気力に私達も感銘しこれから悔いのない様に、私達で出来る事はしてあげよう、残された時間を有意義なものにしてやりたいと思い、私も血圧の測定、薬の管理、食事の面で気をつける様にした。

新年を迎える頃には抗がん剤も受けられる事になり、しっかりと自分の足で治療室に入って行つた。不可能だった治療も受けられる事に感謝し、毎日生きている喜びを感じている。残された日々を大切にし、私を感じない当たり前の生活に幸せをかみしめている。

病院の医療関係の多くの人々の力と、退院して手早く介護保険の手続きをしてくれた人達に感謝の気持ちでいっぱいです。又私は今まで自分の一方的な気持ちだけで介護の仕事をしていたが今回介護される立場になって初めて利用者の気持ちを察する事も大切だと知った。

これからも「生きる」という主人に寄り添って限られた命を二人で大切に生きる。



佳作 坂本 和子 (阿見翔裕園)

「内緒」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

私の祖母

私の祖母は今年で九十三歳です。認知症を患っていて、特別養護老人ホームに入所しています。祖母が入所するまでの日々はとても大変でした。祖母は冷蔵庫にある食べ物をストックさん食べてしまったり、深夜に徘徊して警察の方に家まで送っていただいたりしたこともありました。しまいに、家族のことも誰だか分からなくなってしまう、夜中に大きな声を出してかんしゃくを起すことも少なくなかったです。そんな祖母の状態に家族は疲れ切っていました。何ヶ月も続く祖母の介護のなかで、家族は常に気を張っていて、家族間の会話も減り、物寂しい日々だったように感じます。祖母は元々、足を悪くしていましたが、私が幼い頃から一緒に遊んだり、おしゃべりに付き合ってくれたり、何かと面倒を見てくれました。祖母がくも膜下出血で倒れ、入院していたことがあって、長くはない期間でしたがたくさんの思い出が残っています。だから、祖母がその状態であ

ることは、私にとって目を背けたい事実でした。入所することが決まって、実際に祖母がいなくなったとき、寂しい気持ちでしたが、少なからず気が緩んでほっとした気持ちもありました。祖母に会いに行ったとき、家にいたときより楽しそうな笑顔が見えました。やっぱり私のことは分からなかったけれど、別れ際に「気をつけてね、寂しいからまた来てね、待っているよ」と朗らかな笑顔で声をかけてくれました。嬉しい気持ちと、祖母の介護に関わる全ての人に感謝の気持ちでいっぱいになりました。その人たちのおかげで今の自分や家族の穏やかな日々があり、祖母も楽しく安心して、平和な生活を送ることができるといことが実感できました。

祖母の介護を通して学んだことをいかし、これからも介護に関わる全ての人への感謝と尊敬の気持ち忘れずに過ごしていきたいと思えます。



古河市立三和北中学校 3年生

鮎川 あゆかわ 結芽 ゆめ



佳作 稲葉 秋子 (延寿館)

「カメラの前では見せない笑顔」



茨城県老人福祉施設協議会長賞

利用者様の想いに寄り添う



かさまグリーンハウス

おそのえ
小 江
純平

今年の春、高校を卒業し私は介護士になりました。

介護士だった母の影響や曾祖母との暮らしがあり、幼い頃から介護士になる事を考えていました。

お年寄りが好きで介護を始めた私ですが、いざ介護を始めてみると自分のしていたイメージとは少し違っていました。

先ず利用者様の一つ一つ違った個性を理解した上で、約三十名の生活支援をさせて頂くことの大変さです。

大声を出してしまう方、なんでも口に入れてしまおう方、「あの人に盗られた」と不安になられる方、「帰ります」と言っただアの前に立ち不穩になられている方などに対し、「大丈夫ですよ」と一言言うことしか出来ませんでした。今考えてみると何をする場所かも分からない所で知らない人に大丈夫ですと言われる安心は出来ないと思っています。

そんな時に私について頂いた職場の先輩から「利用者様の気持ちになって考えてみて」とアドバイスを受けました。

介護の仕事をしていると利用者様に対し「何か力になってあげたい」と思い違いをしてしまいます。隠しておきたい事もあるだろうし一人になりたい時もあるかもしれない。そのような時には、利用者様の気持ちに寄り添い合うことができたいと思えました。

初めはイメージとは少し違った介護でしたが今では毎日が楽しく、利用者様の笑顔で溢れています。これから介護士を続ける上で様々な壁が現れ、思い悩んでしまうと思います。

その度に利用者様の立場になって考える事を忘れず生活支援を全力で、サポート出来たらと思います。



佳作 高金 瞬 (大野の郷)

「眠たくて…昼」

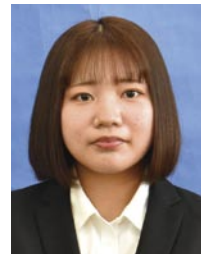


茨城県社会福祉協議会長賞

曾祖母が教えてくれた 福祉への道

私が高校二年生の時、曾祖母が自宅で転倒してしまい、病院へ行き検査をしたところ脊椎圧迫骨折と診断され、医師からは「年齢も高いし骨も弱いから手術をしても本人の負担も大きいから歩けるようになるのは難しい。」と伝えられました。そして曾祖母は転倒をきっかけに寝たきりの状態になってしまいました。曾祖母が自宅に戻り、私は心配をし何度も会いに行き、曾祖母の温かい手を握りながら話をしていました。

ある日、私の母が曾祖母の排泄介助を終えた時に顔を見ると、スッキリした様子で同時に笑顔が見られました。その表情を見た時に私も介護をしたい、何か役に立ちたいと思うようになり介護士になることを決意しました。それから私は専門学校に入学し、基礎・知識を深めるところから始めました。介護のやり方やその人に合った介助方法を学び、実習へ行かせて頂いたり経験を重ねたり、介護をする上で何をしたら良いのかを考えるようになり特徴などを掴めるように施設でのアル



いばらき中央福祉専門学校 2年生

高木 花愛
たかぎ はなえ

バイトも始めました。アルバイトを始め、介助だけでなく周りの環境整備を行うことで過ごしやすいう空間を作ることができ、その方らしい生活が送れるようになることを学びました。学校や施設でのアルバイトをしているので、曾祖母の家に行く機会が減ってしまいましたが、私が行ける日には毎回行き、周りの物を整理したり、掃除をしたりなどの環境整備を行いました。曾祖母からは「来てくれて、掃除もありがとう。幸せだ。」と笑顔で伝えてくれました。二年生になり、勉強が忙しくなり中々会えない日が続き、八月に入ると、母から曾祖母が亡くなったと伝えられました。私は頭が真っ白になり、涙が溢れました。中々会えずにいたことに後悔しましたが、今できることをしようと思前向きにもなれました。私が介護福祉士になろうと思えたのも曾祖母のおかげです。感謝の気持ち忘れずに、物事も前向きに捉え、勉強も頑張っていきたいです。



佳作 佐久 和宏 (笠間陽だまり館)

「夏の匂い」



茨城県社会福祉協議会長賞

出合いと共に

杏花訪問介護事業所

早乙女 洋子
さおとめ ようこ

私は訪問介護員としてたくさんの人との出会いに恵まれた毎日を過ごしている。

春四月、訪問先の庭は沈丁花の甘い香りがあたり一面漂っていて、手招きされるように少し匂いを楽しんでから玄関に入る。

訪問対象者Sさん（七十代女性認知症）は、花が大好きで毎日、草花の手入れを楽しんでいる。嫁いでお姑さんに仕え、店を守り立ててきて、そのお姑さんとご主人を看取り自身の大病を乗り越えて、現在一人暮らし。離れて住む長男、長女が交互に訪れて、体調観察があり精神状態も安定していて、安否確認の為、週一回一時間のヘルパー派遣依頼あり訪問となる。

挨拶を交わし合うと見違えるように表情が明るくなる。ヘルパーは、健康状態をよく見て心を受け止めてあげる。服薬確認後お風呂掃除に取り掛かるが終わるのを待ちきれず、話し掛ける時は手を止めて耳を傾ける。目を見て真剣に寄り添ってあげる事を掃除よりも本人は望んでいる。表情や

態度から気持ちを受け止める事がヘルパーの大切な役割だ。

Sさんの訪問は、まだ、始まったばかりでカレンダーに記入された訪問日は、少し緊張してしまふようだが、その気遣いが心身により緊張感となり、認知予防につながるのと同時に様々な相乗効果を得られます。

梅雨時、急に雨が降り出したので一緒に洗濯物を取り込んだ時、「ありがとう」と、とても感謝してくれ、我が家の庭の草花を摘んで行った時、喜んで直ぐ花瓶に生けて毎日、水を替え眺めて楽しんでくれた。

Sさんは物忘れを自覚していてしっかりと「人の心はよく解る」と、真剣な眼差しで訴えるように言う。本人らしく生きる為にできる事は奪わず任せる。周りの者はそれを見極め見守る。本人の心身の変化を感じた時、迷わず速やかに家族や関係者に連絡を入れる。安心安全に望む生活ができるように目配り気配り励まし合って共に生きたいと思います。



佳作 市毛 伶奈 (ケアステーション藤が原)

「七夕まつりのひととき」



茨城県理学療法士会会長賞

曾祖父がくれたもの

私がこの作文を書こうと思ったとき一番に頭に浮かんだのは四年前に九十四歳でこの世を去った曾祖父でした。

曾祖父はとても穏やかで優しくかったため、私も、私の兄弟もみんな曾祖父のことが大好きでした。私は生前の曾祖父に数えきれないほどの愛情をもらって育ちました。特に、今に深く関係しているのが私の名前です。私のこの名前は曾祖父が私の両親とたくさん考えてつけてくれた名前です。私は曾祖父たちがつけてくれた自分の名前が今ではとてもお気に入りです。また、曾祖父は私達兄弟を毎日のように笑わせてくれました。私はその時からみんなに笑顔を与えてくれる曾祖父に憧れていました。その時の曾祖父は私にとってとても輝いていて元氣に見えていました。私はそんな曾祖父とずっと一緒にいられると思っていました。

ですが、ある日私の大好きな曾祖父は私の名前すら忘れてしまいました。そこから曾祖父は介護施設に入りました。私は今までもらった曾祖父か

らの愛情を私は私なりに返そうと、介護施設のバスが見えるとお見送りなどはもちろん、話をたくさんしようとして毎日、心がけました。ですが、もらった愛情を全て返す前に私の大好きな曾祖父はこの世を去りました。

私は、曾祖父がこの世を去ったあと、とても悲しくて毎日のように泣いていました。ですが、祖父母が

「曾祖父にとって一番の恩返しは毎日、健康で笑顔で生活することだよ。」

と教えてくれました。その言葉をかけてもらってから私は、曾祖父の分まで毎日笑顔で生活しようと、立ち直ることができました。

私は曾祖父から、人を思いやる気持ちや、一日一日を大切に生きることの大事さなど様々なことを学びました。私は曾祖父から学んだことを生かして毎日を大切にしたいです。また、介護士になりたいという私の夢を与えてくれた曾祖父はいつまでも私の憧れです。



銚田一高附属中学校 1年生

おおかわ
大川 咲羅



佳作 久下 隆史 (元気館)

「夢も一緒に届け」



茨城県理学療法士会会長賞

「笑う門には福来る」

「暇なのよねえ。」

「長生きするもんじゃないわねえ。」

ある日、廊下で立ち上がりの運動を一人で黙々と行っている百歳を超える女性の入居者様が寂しそうに私に言った。

私は、特別養護老人ホームで働く今年で十四年目の看護師。百名程の人生の先輩である高齢者と日常生活の援助や介護・健康観察で関わっている。しかし、毎日同じことの繰り返しでは安楽不足なのだと感じた入居者様の一言だった。

コロナ禍になって、自己欲求への我慢は施設の入居者様も同じだった。感染症対策の為に家族との面会制限・外出禁止を都合よく捉えていたのは私共職員だった。コロナ前はイベント満載でとても賑やかで施設内に笑い声が毎日のように響いていた。しかし、職員の表情もマスクで隠れて暗く、クラスターにもなったりしてイベントも行事も極



特別養護老人ホーム七福神

看護職

海老原 典恵

端に減って心に余裕がなくなっていた。

そのような状況の中で私が自ら学んだ心のケアの「介護」とは、認知症で今日の出来事を忘れてしまいうだろうが今を楽しく声を出して笑うことは大きな刺激となること。また、「自分がしたいことを少しでも長く」を目標に心の余裕を持って触れ合っていくこと。心のケアとして私は、「笑顔にすること」も大切な「介護」であるのだと堂々と発表したい。

これからも、嬉しい、楽しいを言葉や行動で表現して皆の顔が「笑いじわ」だらけになるような毎日を生活の場であるこの高齢者施設七福神で笑顔を届けていきたい。



佳作 田山 未来 (スマイルあかね)

「おばーちゃん、これあげる」



茨城県介護福祉士会長賞

祖父とのハイタッチ

古河第二高等学校 1年生

鴨田 かもた
樹季 いつき

祖父は私が小さい頃から、得意なオセロを遊びながら教えてくれたり、私の試合を観に来てくれたりととても優しくかった。

そんな祖父は私が小学校六年生のときにがんになってしまった。そのためたくさん会いたくと思っていたが、コロナウイルスが流行し始め、全く会うことが出来なかった。みんながコロナ禍で苦しんでいる中、私の祖父はがんにも苦しんでいて、私はただ祈ることしか出来なくて悔しかった。

中学二年生の正月、私は祖父と久しぶりに会うことが出来た。祖父の姿は前と比べてやせてしまっていたが前と変わらず元気だったため、祖父はまだまだ大丈夫だと私は安心した。それから祖父は入院することもあったが私が高校生になる頃には家で祖母と愛犬と暮らしていた。高校生になつてからは祖父の家にコロナウイルスを気にすることもなく行けるようになってきた。ただ祖父は体調が優れず定期的に点滴を打つようになっていた。

祖父は突然私に将来の夢を聞いてきた。それに対して私は、

「介護に関わる仕事をしたいから介護福祉士の資格をとるために学校で勉強している。」

と答えた。すると祖父は、

「人の役に立つ仕事に就きたいというのはたいしたもんだ。頑張つてね。」

と笑顔で言ってくれた。これが祖父と私の最後の会話になった。

祖父は私が会いに行くと、どれだけ体調が悪くても心配をかけないようにと元気なフリをしてくれて、昔から祖父の家から帰るときに外まで出てきてハイタッチしてくれる、そんな祖父が大好きだった。ハイタッチが出来ないと思うととても寂しいけれど、祖父が最後に応援してくれた夢を私は絶対に叶えるために三年間必死に勉強を頑張ろうと思う。介護福祉士の資格をとって、心の中で祖父とまた笑顔でハイタッチが出来るように。



佳作 西井上 知子（成華園）
「笑顔咲く」

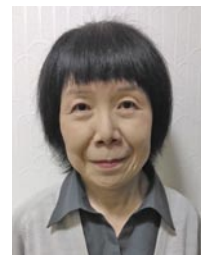


茨城県介護福祉士会長賞

介護で深まり広がる つながり

九十四歳の義母を介護していると、心配事がたびたび発生する。先日の場合には食べない事件だった。義母は好物の五目飯を一口も食べようとしないかったのだ。おなかには痛くないと言う。私は途方に暮れたが、入れ歯の不具合かもしれないと思い、訪問歯科に診察を頼んだ。医師は義母の口の中を見るや否や「口内炎ができて痛かったね」と食べられない原因を見つけてくださった。

私はその時以来、介護で困ったら一人で悩まず誰かに相談するようになった。私の役割は普段と違う義母の様子に気づいて専門家の知恵を求めることだと悟ったからである。さらに、私は他人の手助けを喜んで受けるようになった。たとえば義母を車椅子から車へ移す際に手伝いを申し出てくれた通りがかりの人にも有難くお願いした。一人より安全で心強く、何よりそのご厚意が嬉しいからだ。こうして「皆の手助けに支えられて命を守



東海村会計年度任用職員

やまの
山野 素子
もとこ

る」という私の「介護」像ができたのである。「介」の字が「人」を下で支える手に見えてくるから感慨深い。

ある日、高齢の女性と盲導犬が寄り添う姿に出遭った。そこには周りの人々の心まで安らかにする親しみと信頼感が漂っていた。もともと動物には人の心を癒す力が備わっていると感ずることがあるが、この犬は訓練と時を経て女性の大切な相棒になったのだろうと想像した。

私達は個々の力は小さくとも、必要とし、必要とされる体験を通じて強くつながることができ。しかもそばにいてだけで互いに安心することができるのだ。この女性と盲導犬のように、義母と私もそうありたいと願う。

今日も義母は懸命に命の最終章を身をもって私に伝えてくれている。

茨城県老人福祉施設協議会の目的

会員の老人福祉法上による老人福祉施設及び在宅サービス事業、介護保険法上による居宅介護支援事業及び居宅介護サービス事業の経営管理に関する研究・情報交換及び職員の資質向上のために必要な事業を展開し、老人福祉施設等の持続的発展、社会的認識の高揚を図ることによって、茨城県の老人福祉施設の向上に寄与することを目的としています。

福祉人材の
育成

介護事業所の
管理・運営の
向上

高質・多様な
サービスの提供

本会の
組織・共同活動の
充実

安心を支える介護の構築

一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会 概要

委員会

- 経営管理委員会
- 広報委員会
- 災害対策委員会
- 研修委員会
- サービス向上委員会
- 次世代委員会
- 福利厚生委員会
- 福祉人材確保対策委員会
- 認知症介護実践研修委員会

協議会の事業

- ①全国社会福祉協議会、全国老人福祉施設協議会、並びに関係官庁及び諸団体との連絡調整
- ②茨城県社会福祉協議会との連携強化
- ③会員相互の連絡調整及び情報交換
- ④老人福祉施設等の経営及び管理運営に関する調査研究
- ⑤施設職員の資質向上のための研修及び福利厚生事業
- ⑥会員施設の利用者の自立を支援しQOL及びCSを高める調査研究
- ⑦会員の慶弔に関すること
- ⑧その他目的達成に必要な事業



茨城県老協
マスコットキャラクター
ローシー

2018年11月11日「介護の日」に生まれる
介護の「介」をモチーフにしている
頭の形は「筑波山」
目は国道6号線（ロック）の「6」
体はメロン生産量日本一にちなみ「メロンパン柄」



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 1918 (茨城県総合福祉会館内)

TEL : 029-241-8529/FAX : 029-241-4456

メール : info@jsibaraki.jp ホームページ : <https://www.jsibaraki.jp/>



茨城県福祉人材センター 求職登録者受付中!!

茨城県福祉人材センターは、
福祉の仕事(介護や保育など)に就きたい方と、福祉施設・事業所を結びます。
無資格・未経験者でもご紹介できる仕事があります。
福祉の仕事に興味のある方は、ぜひご相談ください。



WEBで

「福祉のお仕事」ホームページ(下記QRコード)
から求職登録や、求人情報の検索ができます!
登録いただいた方には、希望にあった求人情報
をご提供します。登録、利用は無料です。

お電話で

お電話でもご相談いただけます。
•どんな求人が出てくるのか教えてください。
•仕事内容について聞きたい。
そんな方はお電話ください。

職場体験 の実施



中学生以上の方を対象に、福祉の仕事「職場体験事業」を行っています。実際の福祉の職場を体験したいという方は、お気軽にご相談ください。

- 体験先 … 県内高齢者施設
- 体験内容 … 利用者の介護・介助、作業補助 等



介護の 資格 届出

介護福祉士の資格を持つ方、介護に関わる研修を修了した方は、福祉人材センターに届出をしていただくことで、介護にかかわる最新情報や研修によるスキル維持・向上のサポート・就労支援などが受けられます。
○「福祉のお仕事ホームページ」(下記QRコード)から届出登録できます。

福祉の お仕事 カフェ



就職相談会を以下の日程で実施します。

■日立会場(多賀市民会館)

令和4年12月25日(日)

■つくば会場(イーアスホール)

令和5年1月7日(土)

■水戸会場(ホテルレイクビュー水戸)

令和5年1月15日(日)

※詳しくは下記お問い合わせ先まで御連絡ください。

■お問い合わせ

茨城県福祉人材センター

☎029-244-4544 📠029-244-4543

〒310-8586 茨城県水戸市千波町1918

セキショウ・ウェルビーイング福祉会館2階



▲福祉のお仕事HP



▲福祉人材センターHP



▲福祉人材センターFB



公益社団法人

茨城県理学療法士会

Ibaraki Physical Therapy Association

茨城県理学療法士会は県内44市町村と協働して下記の事業を市町村単位で展開し、県民の健康寿命の延伸を目指します。

★北茨城地域自立支援センター

- 保健・医療・介護・福祉・教育・就労の連携推進をお手伝い
- 理学療法士が在宅生活の構築に関する相談を受け付け
- 北茨城市や関係機関とともに地域包括ケアシステム構築に協力

【相談事例】

- 退院・退所後に自宅での自立した生活がしたい
- 訪問リハビリテーションを受けたい
- 職業性腰痛、介護方法等に関する勉強会の講師を頼みたい
- 障がい児・者や家族からの在宅生活に関する相談をしたい

〒319-1559 茨城県北茨城市中郷町上桜井844-6
北茨城市コミュニティーケア総合センター元気ステーション内
TEL：0293-44-3616



★筑西地域自立支援センター

〒308-0816

筑西市徳持 433-3 (ザ・ヒロサワ・シティ内)
TEL：0296-47-0294

- 相談支援事業所「ひなた」
(事業実施委託先：茨城県リハビリテーション専門職協会)
- 無料職業紹介事業

★シルバーリハビリ体操の普及推進

茨城県では、茨城県立健康プラザや市町村の主催する講習会を修了した「シルバーリハビリ体操指導士」による住民主体の介護予防事業が広く行われています。日本理学療法士協会ならびに茨城県理学療法士会では、誰もが気軽に取り組むことができ、介護予防と健康増進に高い効果が認められる「シルバーリハビリ体操指導士養成事業」の普及ならびに「シルバーリハビリ体操指導士」の皆様の活動を応援しています。2022年度はシルバーリハビリ体操フェスティバルにおいて、フレイル・サルコペニア予防を啓発する動画を作成しHPで公開し、理学療法士による電話相談を行いました。またシルバーリハビリ体操はYouTubeからも無料閲覧ができます。



【お問い合わせ先】

公益社団法人 茨城県理学療法士会
〒310-0034 茨城県水戸市緑町3-5-35 (茨城県保健衛生会館内)
TEL：029-353-8474 FAX：029-353-8475
ホームページ：http://www.pt-ibaraki.jp/

お問い合わせはこちら



Facebook



Twitter



Japan Association of Certified Care Workers

公益社団法人 日本介護福祉士会

第30回 全国大会

第21回 日本介護学会 in いばらき

テーマ

介護新時代の MAKUAKE を
いばらき から ~考える 感じる 気づく つながる~

会期

11 2023

11 Nov

11 Sat 12 Sun

会場

水戸市民会館

大会長：森 久紀 / 志村フロイデグループ 介護部 部長
実行委員長：伊藤 浩一 / 社会福祉法人北養会 理事



写真提供：茨城県営業戦略部観光物産課

運営事務局 一般社団法人 茨城県介護福祉士会

〒310-0851 茨城県水戸市千波町 1918 番地 (茨城県総合福祉会館 5 階)

TEL 029-353-7244 (月・木 9-17 時) FAX 029-353-7246





茨城県

茨城県福祉部長寿福祉課 介護基盤整備グループ

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6 tel.029-301-3321



一般社団法人 茨城県老人福祉施設協議会

〒310-0851 水戸市千波町 1918 tel.029-241-8529

2023年11月発行